



「スイムピア奈良」の全景。1階に室内プール、2階にジムなどの施設が配置されており、アプローチの動線もそれぞれに用意されている。

まほろば健康パーク

「まほろば」とは、「素晴らしい場所」「住みやすい場所」といった意味をもつ日本の古典文学に用いられた言葉だ。奈良盆地のほぼ中央、大和川と佐保川の合流点に位置し、下水処理場である浄化センターの環境向上を図るために、一九七五年に完成した奈良県浄化センター公園が、今回取材する場所になる。奈良県浄化セン



10コースの室内25mプールと観客席。室内プールは、一年を通して利用することができる。完成に向けて、プールの内装工が進む。

現場発見

Site Discovery

市民のための 選手のための 新県営プール

奈良新県営プール施設等整備運営事業

奈良県は、大和郡山市と川西町にまたがる奈良県浄化センター公園を再整備している。その広さ、なんと二二・八畝、東京ドームの約二・七倍の広さだ。敷地内には、健康増進・リハビリの拠点として、野球場やテニスコートはもちろん、トレーニングジムやフィットネススタジオまでそなえている。そのなかの目玉である新県営プールの建設工事にたずさわる奥村組・比名潔所長に取材した。



る事業者までをも提案する必要があった。

先日現場には、荒井正吾・奈良県知事や県議なども視察に訪れ、完成を心待ちにしているとの考えが示されたそう。新しい公園と中心施設の新プール棟の名称は、公募の結果「まほろば健康パーク」と「スイムピア奈良」に決定。人気のあつたファミリープールもリニューアルされて、本年七月一日にオープンする。

県民も使える「競技用プール」

二〇〇八年に廃止されて以降、奈良県内には、県営プールがひとつもない状態が続いていた。しかし、「まほろば健康パーク」の一部として、まさに六年ぶりの復活に向けて、整備が進む。「スイムピア奈良」と名づけられた新施設は、屋内に二五畝（二〇コース）プールと、同じく二五畝（六コース）の健康増進プール、それに隣接する形で、屋外ながら五〇畝（二〇コース）プ



上／二階のジムスペース。広さは、約400㎡あり、約150㎡のフィットネススタジオも隣接している。

下／ファミリープールは、流れるプールやスライダーなどの遊具を備え、プールが利用できない期間は、インラインスケートなどが楽しめる。

工事概要

発注者：奈良県
施工者：株式会社奥村組
工期：平成23年10月～平成26年6月
建物概要：RC造一部S造、（新プール棟）地上2階 地下1階
建築面積：6,444.44㎡
延床面積：7,995.88㎡

ールを有する。さらには、プールの水に温水を使用することで、屋外プールは、五月から十月までの六カ月間使用できる。「PFI事業でするので竣工後の運営のことも考え、入札の際に温水プールにすることを弊社から提案しています」と比名所長。他にもプールに併設するジャグジーをはじめ、トレーニングジムやフィットネススタジオ、サイクリングステーション、飲



10コース、50mの屋外プールと観客席。屋外プールは、温水を使用することで、5月から10月までの間、使用することができる。

食物取施設までも内包し、屋内に三〇五席、屋外に一、五二九席の観客席を完備する。プールは全て競技用としても使用されるが、その公認を得るために、日本水泳連盟プール公認規則に準じ、プールの施工管理には、正確な寸法精度が要求されている。その値は、コース長さの誤差が一〇ミリ以下、スタート側・タッチ側の壁面の不陸はプラスマイナス二・五ミリ以下だ。使用されるセラミックタイルは、世界の主要な大会が開催される競技用プールに使われているもので、ドイツから輸入している。また、水深が深いほど、泳いでいる際に波が立ちにくい。この施設では、どのプールも十分な水深が確保され、五〇メートルプールに至っては水深は二メートルとなる。競技用プールとして必要不可欠な大きさを設計されているとはいえ、これほどの機能と設備を県民が普段利用できるとは、うらやましい限りだ。将来、オリンピック選手がここから生まれるかもしれない。

プール施工の規模と技術

慣れ親しみすぎて、今まで気にもしなかったプールの構造について、例えば二五メートル（一〇コース）のプールに水を満たすと、どのくらいの重さになるのか、ふと考えてみた。水の重さは一立方メートル、一コースの幅を約二メートルとすればプールの全幅は二〇メートル、水深が一・三五メートルとなると、水の総重量は二〇メートル×二五メートル×一・

奈良にゆかりのある会社

比名所長の勤める「奥村組」は、一九〇七（明治四十）年に初代社長である奥村太平洋氏が生まれ育った奈良県香芝市から、その歴史がはじまっている。一九六二（昭和三十）年には、奈良県庁舎の建設に携わり、近年では県庁舎のリニューアル工事に比名所長自らも関わっている、奈良にとってもゆかりのある会社だ。奈良駅の近くには、創業百周年を記念して建設された奥村記念館もある。

現場から車で二〇分ほどの場所に暮らす比名所長も「完成した折には、年間パスを購入して通うつもりです」と奈良県民としての顔も垣間見せてくれた。

一方、「昔の現場は、所長自ら責任をもち、作業員の手配、工事金額の調整まで、すべてを統率していました。そんな職人気質な姿に憧れたものです」と比名所長が若手と呼ばれた当時の話を聞かせてくれた。工事単価の上昇や作業員不足など、今の建設業界を取り巻く環境は、その頃とは少し異なる。「自分の技能を信じて誇りとし、納得できるまで念入りに仕事をする実直さが、最近少なくな感じます」。比名所長は、昨今の作業員の多くが、サラリーマン化しているようにも感じているそう。若い頃の自分が感じた仕事への憧れや職人気質の精神を、どうやったら若手に伝えられるか、日々奮闘している。

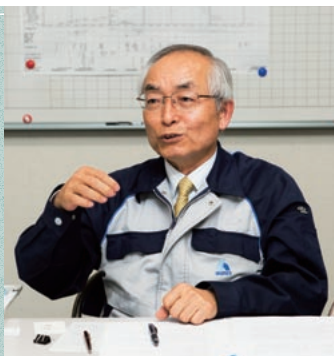


上／屋外プール下に施工されている杭の様子。最大で1,000φの杭も使用された。
下／プールの耐圧版を施工した様子。（提供：（株）奥村組）

Q あなたがこの現場で発見したことは何ですか？

A 住まいに近く親しみもある地域で、これほど大きなプロジェクトに携われることは、非常にうれしいことであると同時に、300人近い作業員と「後世に残る仕事」であることを誇りに思い、竣工に向け、一丸となって作業にあたっています。一方で、近年どこの現場でも作業員不足に苦慮していると思いますが、同時に作業員の高齢化も見受けられます。

この現場には、72歳になる左官職人が働いていますが、真夏の炎天下でも、寒風吹く真冬でも、彼の作業する姿をみる度に、こちらも勇気をもらいました。残り少ない会社人生ですが、彼と仕事をすることで、私自身一日でも長く、現場に立ち続けたいと思うようになりました。魅力ある建設業になるためになにかできることはないか、と常々考えています。



株式会社 奥村組 西日本支社
奈良県営プールPFI工事事所
統括管理責任者

比名 潔
Kiyoshi Hina



左／プール用タイルをはるタイル工事の様子。不陸の誤差は、2.5mm以内で施工される。右／健康増進プールの床モルタルを増し打ちする様子。